夕刊
磐城時報
三十日
編輯兼發行 印刷人 岡田弘成
印刷所 加納活版所
發行所 磐城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金卅錢
廣告料一行十二字詰五十錢
日刊（日曜祝祭日）翌日休刊

古河炭礦勞働者 賃金二割値上げ
常磐各炭礦に 黑ダイヤ景氣出現

常磐各炭礦は軍需インフレに煽られ大正七八年當時を彷彿させる好況の絶頂にあり、既報の如く磐炭、入山大日本等各炭礦で續々と增資を計り出炭增加に大童となつてゐるが、その反面に於て從業員の收入も非常に增加し將に各炭礦共黑ダイヤ景氣を現出してゐる。茲に好間村古河炭礦では來る一日から職員を除く全勞働者の賃銀値上げを斷行する事になつたが、昇給率は約二割で先山夫一日三十錢、雜夫同二十錢、女同十錢である。入山炭礦では十二年度中に三回の値上げを斷行したので今回は一部分に止める由である。磐城炭礦では去る一月全山四千餘の從業員に對し値上げを斷行し優遇の方法を講じてゐる。

春木亭の女中
面當での自殺未遂
情夫と言ひあつて服毒

市内松ヶ岡公園内春木亭方女中平本つや（二五）は二十九日夕主家方で毒をのみ自殺を企て苦悶中を家人が發見醫師の手當を加へた結果一命は取り止めた、同人は數年來戀仲であつた永戸村材木商三瓶某に最近秋風が立ち同日訪れた男ゴタ〳〵が持ちあがり面當での自殺を企てたものらしい

▲夏井村會
夏井村會は卅一日召集區長改選その他を附議する

▲平市防空委員
平市では我等の空を護れとさきに十三年度豫算に防空費を計上し平市防空委員會を設置して空の護りの完璧を期することゝなつたがその委員二十名はこの程知事から左の如く任命され二十八日初顔合せを行つた

助役須藤秀吉、消防組頭井上茂作、同副組頭關内正一、郵便局長牛崎久吉、磐中配屬將校中村中佐、商工會理事猪狩正平、市聯合分會長藤田榮助、藥濟師協會支部長鈴木新右工門、農會長諸橋久太郎、市會議長野崎滿藏、驛長山崎花郎、警察署長八卷胞次郎、齒科醫師會長荻原義雄、商工會長山崎與三郎、青年團長山崎忠兵衛、醫師會長清水廣政、大日本電力營業所長鈴木幸藏、鐵工組合理事長河田梅吉、教育部會長篠山廉、少年團長川崎文治

六十枚橋
開通祝賀式

草野夏井間六十枚橋は此程竣工したが來月廿日開通祝賀式を擧行する事となり四月一日兩村委員が準備の打合せを行ふ

飛んで來た岩石で
二名重傷を負ふ
磐炭住吉坑の椿事

内郷村磐城炭礦採炭夫同村宮字臺木村武夫（四二）同村高坂御殿大橋仲藏（三八）の兩名は昨二十九日午後三時四十分頃同礦住吉一坑内で岩石除け作業中の刹那飛んだ岩石で木村は左肋骨と腕大橋は脊柱を骨折兩名とも即死した、兩名は同日午後三時頃入坑此奇禍に遭つたもの

中支戰線から（三）
支那良民泣いて
日軍に別れを惜む

兩角部隊軍醫　木村守江

次に和縣攻擊となつた、戰車六十臺と共にだから敵は、戰車の音丈で潰走してしまつた。直ちに殘敵を掃蕩して和縣を占領した、實はこの和縣に守備となるのかと思つてゐたら廿一日になつて江浦に歸れとの命令があつた、仕方がない十五里程ある道を二日の行軍で江浦に歸つて來た、相變らずなごやかな醫務室である、九日ぶりで我家に歸つた氣持がした。一月卅日の東京日々新聞の福島版に醫務室の寫眞があつた、他の醫務室に違いない、或人から先日の時報に江浦宣撫工作を書いておきながら何故あの寫眞に撮つてゐないのか病氣でもして寢てゐたかと言つて來た人があるが、あの時は鳥江鎭の戰鬪に出張中であつた、すべて新聞社の寫眞版は後方部隊のものが多い、到底本當の第一線の狀態など撮つてゐる暇がない、又撮れるものでもない。こんなわけで病氣などしてゐたのでないから安心下さい。それで丹野（小名濱）看護長が留守隊長で撮つたのである、この一番すみなれた江浦縣の生活も他隊と交代になりその翌日は全椒に向つて出發した、この出發の時が大變だ、王、隨兩家の家族が泣いて涙を流しながら別れを惜しむ有樣である、決して支那人とは思はれない。日本人と同じだ。皆樣が行つた後はどうなるか分らないと言つて泣く、大丈夫だ

日本人は良民は決して危害を加へない

安心々々と言つてやつたが仲々承知しない、仕方なしに『この家族極めて善良、日本兵の爲め誠心誠意便宜を計れり、生命財産を保護せられたし』と書いて認印を捺してやつたらやつと安堵したらしく、体を大切にしてと言ふ。言ふことが日本人と同じである、斯くして全椒に來り此處を出發四日後定遠に來た、この地は日清戰爭の旗艦定遠の名の出所で李鴻章の出生地として有名である、この地には相當の敵の陣地を造つてゐた、然し友軍の勇敢なる攻擊は二日間、時間で言へば十二時間位であるが徹宵の友軍の攻擊で占領してしまつた、然し相當の犧牲者を出した。今度こそこゝで守備かと思つたら午前七時半に定遠城を占領して午後〇時卅分には向西南方へと向け前進開始した、而かも夜の十二時迄も迫擊前進した、敵陣地の中を眞暗い夜道を前進するのだから氣持が惡い。

この爲三度敵の待ちぶせ的な射擊に

會つた。然し少數の死傷者を出した丈で午前〇時卅分に至り大休止した。翌朝は午前四時出發である、飯を炊いて食ふのにやつとである、然し諸兵疲れながらも再度暗い道を前進する、何れも半分眠つて歩いてゐる、仲には氷ですべつてころぶものもある、ひどいのは氷がはつてゐるクリークに首きりズブンと足を踏みはずすものがある。前の兵隊の背嚢に頭をぶつけて目を覺すものもある。然し一發でもズドンとなるものなら眞劍だ。こんな行軍を續け殘敵を追擊して武店に着いたのが二月三日夕刻である。

平商業學校合格者

★尋常科卒業生

金成秀男　島根英　後藤司郎　棚部信正　高橋誠　小山田榮　遠藤守正　荒垣賢　田中眞顯　新妻好男　星野松　新妻弘　鈴木安政　黑澤順三　山崎高平　荒川久男　波汐國芳　丹野啓次郎　星輝鶯茂夫　鈴木孝道　大平一　松澤榮一　高田利男瀧作重　內山榮一　片寄政男　熊田精一　鈴木高房　鈴木正道　新妻常吉　野口光　馬上勝司　藤田彌輔　眞戸憲匡　菱沼四郎　武田三郎　大塚榮一郎　宗像好正　伊關直治辻重二郎　菊地信榮　八卷弘　小室文雄　門馬昭文　鳥海玄三　江尻磐佐藤善一　加納秀雄　川崎次男　熊田淸二　三浦甚一郎　石田吉男　馬目英一　小濱俊雄　綠川虎之助　菅野光洋　菊地一郎　藤岡規悅　靑戸孝祐瀧口友人　一　鈴木隆正　本多英治　高野光平　鈴木健三　志賀武夫　永島高伯　大樂庄　小林俊三小林伸夫　丹武夫　小野忠吾　堀內國夫　立花久惠　渡邊勝也　山下喜平川井明　松崎宏　鳴原治

★高一修業

道川源次郎　鈴木鑫壽佐藤輝彥　陞村傳　國井敏一　關根淸一　市川芳美　渡邊武　金成廣　松洸貝英　林一雄　緒方一男　加藤登　和深長壽若松安次　鈴木建助　綠川三郎　佐藤秀夫　菊地信治　大垣健次　田山弘平　齋藤健　大平泰明長瀨孝雄　齋藤烈　瀧幸男　室伏亮

★高等科卒業生

小川昇　佐藤久次郎　佐藤久忠　鈴木竹男　松崎宏泰　折之內長次郎　明智淸　古川淸　國府田義之　白土竹治　木幡正助

▲船具を盗む

小名濱町古港無職大竹與八（二九）同漁船機關手野田覺太郎（三〇）の兩名は共謀の上去る二十二日午後十時頃小名濱漁業組合事務所前にあつた同町比佐勇所有船からクランクメタル砲金製七貫匁のものを窃取し泉村瀧尻上谷地古物商金山淸吉事南聖祐に二十圓で賣却遊興したる事發覺植田署に捕はれた

好成績を收めてゐる
平局の保險報國運動
【其の二】

遞信省では國民精神總動員運動に即應して本年一月から全國的に簡易保險報國運動を開始して居ることは既報の通りだが時局柄國民大衆の理解ある支持を得前年同期に比し全國を通じで約七割方加入申込の激增を示したとのことである、隨つて契約高も增加の一途を辿り現在簡易保險は二千八百萬件その保險金額は四十二億圓で昨年三月から六億圓を增加した、郵便年金は四十万件その年金額は三千二百余萬圓で二百萬圓を增加すると云ふ盛況振りで諸外國にも其の類例がないと各方面驚異の的となつてゐる、日本の簡易保險、郵便年金事業が斯くも著しい飛躍を遂げて居るのは制度自體がよく國民大衆の利用に適して居ることゝ其の積立金が低利で各種の社會公衆事業に放資せられ、地方の振興に寄與し又多數の健康相談所設置する外山間地には巡回健康相談も施行して加入者の健康增進を圖るなど國民生活の安定と社會福祉增進とに貢獻して居る爲だと云はれて居る、

磐城中學校合格者

籠倉光雄 大田耕作 鈴木英二 野木董郎 上野英四郎 鈴木惇 榊原孝夫 鈴木喜久雄 木村照久 宮內正喜 後藤一六 大平定 伊藤弘 小野弘 圓谷裕一 高木孝夫 佐藤喜隆 菅萬龜雄 加藤慶祐 柴田睦 增田進 蛭田康 前田慶勝 鈴木喜久男 小澤正英 山崎剛 中村純一 佐藤正 古川浩平 山崎廣・植田圭造 志賀久平 牛澤三男 佐藤一 大和田守 菊地活宗 山森正孝 遠藤一雄 菅野重賞 吉田信夫 吉江圭三 櫻田勇 村松義人 佐藤直人 坂本平助 中野寛 鈴木一也 横山一郎 橋本幸與 大塚孝 佐藤安太 久野俊三 小林德司 横田好毅 佐藤義廣 佐藤達雄 白土五郎 大平貞夫 鈴木圭二 赤池茂 鈴木政隆 安藤信 吉成方義 比佐正夫 蛭田一二 渡邊喜一 佐藤信男 松本久義 藤居喜一郎 箱崎求三 佐藤四郎 大平久 小田恒也 根本孝三郎 大泉善治 村松光男 野村智次 井上惠一 大平貞夫 金子保 古川武 山崎隆 青沼康裕 佐藤常雄 諸橋英祐 萩生田粂雄 坂本由一 高島義清 草野三郎 仲里俊文 松崎七郎 青木信夫 久野昌二 芳賀源一郎 柴田東海男 小島茂一 鯨岡秀雄 陽田善道 赤羽謹治 植田信雄 小泉毅 古宇田常雄 佐々木瑋光 長瀬廣 吉野浩平 小林章 中村一郎 星俊二 大越勝英 山田松之助 松本秀一 佐藤寬 小泉儀孝 鈴木仁 柏木洋二 根本惺 今井好尾 中根秀雄 有坂久彌 鈴木貢 楠貞隆 非笠元康 高野秀三郎 水野三郎 佐藤敏雄 佐川五郎 齋藤英祐 江尻茂 大越啓行 磯山一郎 堀英一 小曾納亨 遠藤寬 佐藤義文 鈴木質 鈴木正 吉田艮次 木村保之 秋山清一 小松正喜 樋口博尚 關內勳 立原進 菅原章 高原敏郎 吉村三郎 森智 草野昌平 笠原知一 村上理成 鈴木一男 鈴木博士 木田茂三郎 山瓊可夫 豊口秀哉 毛塚幸男 沼田孝道 柴田秀雄 佐藤武義 新家武芳 新妻安男 高木秀夫 小濱金吾 高萩勝 青木茂 間宮俊彥 國府田信艮 小野芳治 田邊昇 小林薫 鷲一男 白石長三 上澤成男 山田一 勝見光夫 三瓶繁美 牧野聰一郎 高橋恒壽 高羽博得 石川榮一 格和森高 阿部義一 小野誠 齋藤久吉 武藤邦雄 岡田三男 田中輝郎 吉田英雄 山崎靖夫 菊地紀一 關內正雄 柴田公雄 渡邊進 松本充 伊藤芳雄 遠藤林太郎 仲田壽郎 八巻敏男 原晋 青田二郎 皆川艮一 海老名隆 木田用一 丹野皓司 岡田邦夫 額賀修 小松新平 佐藤健一 神永稔 矢萩哲男 河野光男 猪狩福秀 小松仁 鈴木道雄 中島清香 久保木敏夫 渡邊武 酒井博 遠藤昌弘 赤塚久輝 與田薫 渡邊與平 伊關治郎 下山田比左男 若松嶺三郎 岩村怜 吉田治 秋山嘉一 和田忠 伊坂員郎 畑山忠 鯨岡達治 松崎貞夫 鈴木誠 瓜生正義 高木俊郎 駒木根艮雄 石井章 松本文次 金澤清 小川信親 丹正平 坂本艮一 早坂壽男 川又正男 福來信吉 阿部英精 村上賞智義 若松英信 小松孝次 櫛田昇 莇野邦夫 吉田美惠 佐川英夫 佐藤艮雄 平野進 丹保三郎 村上勝美 古澤貞夫 久栖康道

成田山開基一千年祭　武運長久祈願大護摩

修行團體募集

一、期日　四月三日（日曜日）午前七時四十八分發（六時半迄平驛集合）四日午前十時頃成田町ニテ解散

一、會費　金八圓五拾錢也

但片道汽車賃、車中辨當及茶菓子代、成田宿泊料及茶代、諸祝儀、大護摩修行諸費、箱札料、坊入料及席上諸祝儀、宗吾靈堂大護摩修行諸費　但成田、宗吾間ノ電車賃ハ御自辨ノコト、其ノ他解散迄ノ諸費一切ヲ含ム

一、申込期限　三月三十日迄　會費御持參ノ上御申込ノコト

昭和十三年三月吉日

平市大新榮講

講元　井上貞治郎

五町目【電話六六番】

外科一般　レントゲン科

內臟外科　泌尿器科

北川外科

平市新川町二七

醫學博士　北川芳夫

技師　三浦常保

電話四六四番

◎晝夜診療◎

（血液檢査毎日）

イツデモ入院出來マス

夜間診療

性病專門

內科

胃腸病科

花柳病科

性病科

泌尿器病科

皮膚科

肛門病科

松村胃腸性病科醫院

平市南町（電一〇七番）

獨特の珈琲とWME

紳士の喫茶店

グリル．バッカス

サービス料一割（外拜辭）

平市銀座通り　TEL 720

女店員募集

▽年齡　十七歲位ヨリ廿五歲位マデ

▽月給　初給四拾圓以上漸次昇給

▽待遇　衣裳貸與金支給

▽何の氣苦勞もなく朗に働ける固定給料です

▽眞面目に働きたい方實な生活を望まれる方は御出下さい懇切に御指導致しま

吉田眼科醫院

平市紺屋町（電話六八番）

▽看護婦數名入用

平市田町（電話五一二三番）

高久病院

內科小兒科　耳鼻咽喉科

外科花柳病科

（看護婦募集）

院長　高久忠

副院長　赤羽清

藥局長　佐竹菊雄

中野齒科醫院

院長　日本齒科醫學士　中野惠次

日本齒科醫學士　西川誠

平市田町（松月堂向）

電話五〇九番

診療科目

一、齒科一般

保存科

補綴科

架工科

齒列矯正科

小兒齒科

齒槽膿漏科

一、口腔外科

一、レントゲン科

◇看護婦至急募集

吸入用酸素

純度99%

度量衡

モノサシ

ハカリ

マス

計量器

体溫器

寒暖計

回秤（ハカリ）ノ取締（トリシマリ）・錘糸（タマイト）・修覆（トリカヘ）致シマス

回寫眞機材料一式

關內藥局

電話四〇番

かまぼこ大製造

折詰仕出

お惣菜用さつま揚・吉原揚

平町一丁目

[illegible]

電話一四一番

夕刊
磐城時報
卅一日

福島縣平市[illegible]町十四
編輯兼發行
印刷人　岡田弘成
福島縣平市[illegible]町十四
印刷所　加納活版所
福島縣平市[illegible]町十四
發行所　磐城時報社
一部金貳錢・一ヶ月金卅錢
廣告料一行十二字詰五十錢
日刊（日曜祝祭日）翌日休刊

原町、郡山、水戶間の
列車に櫻の宣傳
松ケ岡の櫻の斡旋に
平驛意氣込む

平市松ケ岡公園新川畔の櫻は昨今の暖氣で急に蕾がふくらみ出し西崖の枝は今にも綻び出すばかり、この分では本年の滿開は四月十日を過ぐる間もない事であらうと察せられてゐる、平市では既報の如く土木委員會に於て觀櫻客歡迎方法を協議し各方面に準備中であるか、平驛では市役所と相呼應し客の便宜を計るため十七日と二十四日の日曜日には左の如く四回宛公園下假ホームに臨時停車をなす事になつたが、水戶、原町間磐越線は郡山まで各驛に櫻宣傳の立看板をたてる外チラシ一萬數千枚を印刷して各驛並に列車乘客に配布する事になつた。

一萬圓を增加し
公會堂に日本間
平市で決定

平市公會堂は新築工事進捗し近く完成するが、最初の豫定であつた日本間は物價騰貴のため豫算不足を生じ見合はせとなつてゐたが、三十日の市會に於て豫算一萬圓を追加し本館の南側に[illegible]設する事になつた、この資金は公會堂縣補助一萬五千圓のうち一萬二千七百圓を借入れる事になつた。

平市の公益質屋
白銀町に建設
六萬圓を融通
九月から業務開始

平市の新事業である公益質屋は愈々九月から業務開始する事となり三十日豫算が平市會で可決された、豫算總額は六萬九千三百七十一圓でその中四千二百圓で二十坪の事務所、三十坪の倉庫を建設（半額は國庫補助）し一ヶ月四十五圓の事務員三名の外小使一名をおく、融通資金は六萬圓を貸す豫定で利子は一圓以下無利子、一圓以上は一割二分であ[illegible]事務所建築の場所は白銀町田邊鐵工所東方の町有地である。

▲蠶業支所長交迭

蠶業取締所平支所長太田安義氏は三十日付で依賴免官となり、後任は只見支所長甲斐啓藏氏が任命された。

磐城高女入學者

△一組

瀧輝子　西塚てい子　西脇スミ　吉田昌江　若松富子　長谷川幸永　永野茂　矢野俊子　大沼喜美子　高木民子　菅野榮子　富田ミイ　草野六津子　柴崎俊子　木村イミ　永井ノブ　上田ミツ　野崎貞子　佐々木綾子　正木田鶴子　齋藤マサ　清水淺子　鈴木榮子　菊池晨子　菊池郁子　森安子　須佐ハツヱ　伊東榮子　龜井慶子　伊東直子　高木眞子　矢吹房子　大庭芳子　松崎敏子　仲井トキ子　酒寄サト子　木村フサ　永井榮子　大越豊子　五十嵐由紀子　新妻愛子　菅田節子　牧原伊久子　渡邊昌子　阿部美代子　小野孝子　齋藤キミ　大竹キヨ子　松本しげ子

△二組

永井比佐子　高木靜江　松崎茂子　伊藤光子　川村アイ子　高瀬英子　笹尾葉子　伊坂京子　安齋テル子　木下きよい　遠藤ヒサヱ　根本エイ子　渡邊サト子　小野信子　矢吹榮佐　松本孝子　志賀江知　堀久榮子　佐藤方子　岡田明喜子　金成テル子　坂本美代子　齋藤トミ子　鈴木ヨシ子　山口順子　吉成照子　鈴木政子　渡邊十子　三好富貴子　北林とよ子　長谷川光子　菅野久子　吉田トシ　古川榮子　金成アサノ　新妻ハル子　加美山さと　土岐一子　初川宣子　高橋葉子　遠藤初枝　涌井千惠子　增井ヤス　松崎マチ　櫻庭滋子　小泉富美子　白土アイ子　阿部クリ子　菅野敬子　梅津文子

△三組

久保田愛子　佐藤正子　三森孝子　清野光子　鈴木チヨ　會川淑子　中野キミ　金子操　野木千惠　大崎福子　松崎富　水野智惠　北郷文子　宮田ヒロ子　堀川仁子　坂内紀子　坂本泰子　大塚睦子　高萩公枝　櫻井國子　大川鈴子　菅明子　青木佳子　杉山タカ　木村初子　高橋千鶴子　有我悦子　坂本スミ子　白土トシ　遠藤千枝子　阿部リウ　松本房子　星野春　蓬來慶子　三瓶タケ　石井芳子　山野邊コウ　大谷スミヱ　山内純子　荒木ミツ　增子操　大竹シゲ子　小野たまゑ　草野美代　飯沼俊子　成田洋子　豐田眞子　田卷隆子　神谷三喜子　會川サタ子

△四組

濱崎惠美子　鈴木眞志子　高橋登美子　國井チヱ子　新妻榮子　鈴木サト　宇田川アヤ子　松本貞子　片寄トメヨ　豐田美津子　木田信　鈴木多嘉子　小松聰子　佐藤法子　矢野シゲ子　高橋喜與子　久保美代子　中野靜子　高木千枝子　荻野國枝　大平八重子　引地和賀子　大越節子　樋口ヤウ　菊田常子　根內和子　御代和子　遠藤幸枝　鈴木カツヱ　青木會乃子　鈴木幸子　横木淑子　蛭田直子　北島郁子　酒井正子　佐藤正子　石井百合子　渡邊久子　山中久江　梅森淑子　田代スイ子　新妻モヨ子　佐藤ユキ　白土照非　猪方クニ子　三好春子　鈴木靜　伊藤敬子　久須美朗子　河田靜

△五組

齋藤千枝子　近藤孝子　依田壽美子　太田二三子　大谷ミチ　代田陽子　橋本トミ　淺野瑛子　鈴木松枝　若松トモ子　武澤麗子　鈴木ヤス　千葉キヱ子　倉澤スミ子　木村美代子　宮本幸枝　金成芳枝　高田芳枝　寺田輝代　小山田禮子　青田ヤヱ子　鈴木麗　西野秀子　篠原英子　鈴木喜代子　西山シメ子　小松環　吉田芳子　鵜沼敬子　樋田登茂江　清野俊子　下山田テル子　菅本よ志子　村上まさ田千正子　富田テル　遠藤ミツ　飯塚喜久子　星ヤイ　柴田三保子　田原愛子　鯨岡美喜子　新谷容　北郷梅子　金成キミ　丹野ミツ　横田琴　佐藤イツ子

石城郡の
酒造見込高

平税務署管内に於ける三十五軒の酒造家は大量に備前米、會津米を購入優良酒の製造に大童であるが、仕込期は大體今月一杯で終り二月末現在までの仕込高は一萬一千七百石で本酒造年度製造見込高の一萬五千五百石にせまり餘る三千八百石も一兩日中仕込まれる筈である、二月中の製造高は五千六百四十七石で藏出高は新酒一千二十六石、古酒三百二十五石で昭和十二年酒造年度二月末日までの累計藏出高は新酒二千八百八十四石、古酒四千七百六十七石となつてゐる。

優勝印高級ソロバン
ドンコ帳簿
デリカ人名簿
代理店
文
ウェル萬年筆
ムツリーニペン
ゼネラルカーボン紙
魁文堂

中支戰線から
窮鼠猫を嚙む
挾討ちにされた敵
（三）

兩角部隊軍醫　木村守江

武店で三日間ばかり掃蕩して敵に多數の損害を與へ澤山の鹵獲物を得て再度定遠に向つた、この途中鳳陽、定遠、武店の方から鋏み打ちされた、逃げ道を失つてまごついてゐた敵、而も大軍に會つた白崇喜の軍らしい、窮鼠猫をはむの勢で不意打ち的に部隊に打かけて來た而して猛烈な戰闘となつた、一時は老陸宅、馬家宅を偲ばせる程であつたが夜になるにつれて何處かへ潰走してしまつた、吾が部隊は徹宵敵の後方を占領すべく眞暗闇の夜道を歩き廻つた、目的地の敵の後方山岳地帶を占領したのは支那時間の夜中の二時に出發して朝の七時頃であつた、霧が深くて一間先見えなかつたが午前十時になつて霧の晴れた頃は敵は一人も居なく逃げてしまつた。

何時も思ふが支那兵の退却振りには驚ろく、實に立派に整然たる退却振りである。

斯くして定遠に歸り其の後定遠、全椒[illegible]縣、即ち津浦線沿線を毎日々々討伐してやつと二月廿三日池河驛に警備となつた、將兵共に氣の毒な位疲れきつた、病人も出た、戰死傷者もある實に文字通りコタ〳〵になつて、然し警備となると体は日に〳〵恢復する三月にはなつたらすつかり恢復してどの兵隊の顏も元氣になつて來た、病人も少なくなつて來たがお蔭様で少しは樂になつて來た、然しこの地は實に穢い。家は殆んど三分の二は破壞されるか燒かれてある。

寢るのも勿論土間に藁を敷た丈である。清潔法を毎日監督しながらやらせるが元々穢いのには何とも仕方がない、それに炊物のないのは困る、支那には立木が少ない、勿論木炭などない。仕方なしに家を破して柱を取つてたくと言ふ有様で家は日一日と減じて來る、この地は時々來るのは支那人一人も居ない、時々來るのは食物に困つた敗殘兵が夜襲をやつて來る丈である、然し友軍に損害を與へるまでには行かぬ、徒らに銃器を打つ丈である。

先に書くことを忘れた支那人の宣傳のうまいのには驚く、和縣攻擊に行つた時に次の如きビラが堂々縣長の印を捺して張つてあつた、參考迄に書いてみる。

特號

（據確息）昨日（一月十四日）下午一時、於烏江東王廟附近、發現敵軍百余人、乘上下十三輛、以重机槍掩護、向西南猛烈攻擊、我北郷壯丁義勇大刀隊、迎頭痛擊浴血抵抗、激戰數小時、我王縣長當即率隊增援聲勢益壯、當場斃敵數名、俘虜三名、並獲机槍二挺、戰馬一匹步槍五支、我亦因砲火、猛烈死亡一人、重傷四人至下午三時、敵不支、潰退橋林、此次敵軍頗受重創云。和中戰地服務團宣傳組製印

肋膜炎を苦にし 鐵道自殺を遂ぐ

三十日午前〇時半頃平、神谷間鐵道で下り貨物列車目がけて飛込み自殺を遂げた二十歳位の女があつたが、平署員檢視の結果好間村上好間小舘二三坑夫運四郎妻山本コトヱ（二五）で病氣を苦にし自殺したものと判明した。

好成績を收めてゐる 平局の保險報國運動

【其の二】

試みに其の事業の活動狀況を調べて見ると最近一年間に簡易保險が支拂つて居る保險金は七千九百萬圓であり東北六縣だけでも五百五十萬圓を突破してゐる、支那事變以來は又特別規則を設け出動軍人をして能ふ限り簡易保險の加入者たらしむることを目標として努力した、現在では其の大部分は加入者と見て誤なき迄に至つてゐる、又兩事業積立金は現在十五億圓の多額に達してゐるが其の放資の內譯は公共事業へ三億一千萬圓、公債地方債へ九億三千萬圓、契約者貸付一億四千萬圓などが主なものである。公共事業として貸付を受け得る事業は五十余種あるが其の內の主なるものとしては例へば小學校に就て云ふならば全國で三千八百餘の小學校が簡易保險の積立金で出來上つて居り二十三萬五千人の自作農が創設せられつゝあつて其の耕地面積八萬七千町歩餘である、又健康相談所は全國主要都市に二百三十所設置され地方に出張する巡回健康相談とを通じて最近一ヶ年間の診療延人員は七百六十萬人の多きを示して居る、之等を東北六縣だけに就てみるに小學校の建築六百四十七、自作農創設維持一萬四千人八千余町歩である、又二十三ヶ所の健康相談所及巡回健康相談の利用延人員は百萬餘人となつてゐる。以上その一部分の數字だけから見ても簡易保險郵便年金事業は國民の幸福と中堅階級の興隆との爲に尠なからぬ働きをして居ることが知られる。

★最優良東京製品★
フトン袋
▷三枚入 五枚入
▷大小兼用各種
▷ロープ式
バンド式
皆樣の旅行に　移轉用に　御婚禮用に　保存用に
㊣ 中野洋品店　平電二53

[illegible] 製造
お惣菜用さつま揚・吉原揚
[illegible]
平町一丁目
電話一四一番

吸入用酸素 純度99%
度量衡 モノサシ ハカリ マス
計量器 体溫器 寒暖計
回秤ノ取締・錘糸・修覆致シマス
回寫眞機材料一式
關內藥局
電話四〇番

診療科目
一、齒科一般
保存科 補綴科 繼續架工科 齒列矯正科 小兒齒科 齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長 日本齒科醫學士 中野惠次
日本齒科醫學士 西川誠
平市田町（松月堂向）
電話五〇九番
◇看護婦至急募集

平市田町（電話五一三番）
高久病院
院長 高久忠
副院長 赤羽清
藥局長 佐竹菊雄
內科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 （看護婦募集）

吉田眼科醫院
平市紺屋町（電話六八番）
▽看護婦數名入用

獨特の珈琲とWME
紳士の喫茶店
グリル．バツカス
サービス料一割（外拜辭）
平市銀座通り TEL 720
女店員募集
▽年齡 十七歲位ヨリ廿五歲位マデ
▽月給 初給四拾圓以上漸次昇給
▽待遇 衣裳貸與金支給
▽何の氣苦勞もなく朗に働ける固定給料です
▽眞面目に働きたい方實な生活を望まれる方は御出下さい懇切に御指導致しま

夜間診療
性病
內科 胃腸病科
花柳病科 性病科 泌尿器病科 皮膚科 肛門病科
專門
松村胃腸性病科醫院
平市南町（電一〇七番）

荊妻シゲ子病氣ノ處藥石其効ナク去ル一月十八日午前一時死去致候間此段御通知申上候
追テ埋葬ノ儀ハ來ル四月二日午後二時自宅出棺平市長橋町性源寺ニ於テ佛式ニ依リ相營可申候
昭和十三年三月三十日
小野園次郎
親戚一同

國華ポマード颯爽たり
皆樣の美容室『理髮東京』は『オールサービス』の滿全を期し國華ポマードを初め全部高級化粧品を使用し行屆いた技術と共に奉仕致して居ります。
帝都美容師會々員
東京國華會バーバーチエン
理髮東京

食事 喫茶 酒場
イワキサロン
男給
平・田町（電三五二）